

然草等を在学中に読む。

昭和二二(一九四七)・一 白山神社宮司となる。

大正 四(一九一五)・六 東京帝国大学文科大学史学科入学。

昭和五九(一九八四)

二月一八日死去。

○いや、あれは専門教育機関で大学ではありません。

平泉 大学はどこにあったのですか。

た。それは大学なんですよ。大学と言っておった。その証拠があるんです。あれが大学であって、職員も大学の何々と称したんです。

○松平春岳公の終りというのはいわゆる「お終り」ですね。

常にはつきりしている。

平泉 春岳公が終りではなく、大学が終わったんです。それは国
学と漢学のけんかなんです。わしみたいな感じの強いのがいたんだ

ところか、私かまた明確に土地を押えておらないのは、ここへ移
ってくる前が上野の忍ヶ岡に林家の学校があったでしょう。その場

となんです。というのは、持てばみんな指紋が付く。これはこのお宮の宝物でもみんなそうで、みんなにさわられると物が傷んでしま
うんです。さわらないことがひとつ。私は仕方ない、さわりますが。

それがみんなに非常な印象を与えておったのがもとだろうと思
いますが、どういうものか私が「名残りの銀時計」ということになっ
て、これが何かというと新聞に出るんです。妙に私だけ残ったがそ

別に優等学生というのがずっと並ぶ。各学部で文学部は文学部、法

これは卒業証書です。

平泉 実にこれは、あなたがいいことを言ったが檄文ですわ。

がなくなってきた。大学の卒業式などでもそうですよ。押し切って

